

## 日本の知恵の結晶ともいえる舞楽法会。 ブラジルの地で大成功を取める。

2008年はブラジルへの移民100周年を迎え、日本ブラジル交流年であった。これを記念してさまざまなイベントが開催されたが、中でも舞楽法会(ぶがくほうえ)は大反響をよんだ。雅楽、舞楽、声明をあわせたこのイベントの真の意味をお伝えする。

桃太郎が桃から生まれ、猿・鳥・犬に出会った理由。

「何からお話ししましょうか」創造する伝統実行委員会事務局長の野原耕二さんは、冒頭にそう切り出した。同委員会は日本の音楽や舞を広く世界へ広めている団体だが、演奏会だけが目的ではないという。

「現代の日本人が忘れてしまった古代日本人の考え方というものがあつたんです。『古代日本の形而上学、つまり天円地方という考え方です』天は○であり、地は□である。天界(星宿)を地上に降ろすと方位により東西南北が生まれる。私達の祖先はそこにすべての生活リズムを当て込んだんです。そのマニュアルが鎌倉時代の楽書である管絃音儀の世界です」

そこには方位、四季、干支、色、音、などあらゆる行動

の規範が表されており、私たちも知らず知らずにその考え方に触れているという。

例えば桃太郎伝説。東南の方角が鬼門であるから、鬼ヶ島は東南の方向にある。十二支でいうと丑と寅の間だ。確かに私たちがイメージする鬼は、ウシの角を生やしてトラ柄のパンツ姿だ。東南の対極は西北だ。色でいうと白と赤の間になる。つまり桃色だ。桃太郎は偶然的命名ではない。西北から東南へと移動していくと、干支は「申、酉、戌」と移動していく。猿と鳥と犬。もうおわかりだろう。桃太郎は上記の形而上的な意味に則って作られているのである。

「昔はこうした教えや作法を誰もが知っていて、生活に取り入れていたのですが、教育が変わり忘れられてしまった。それを失わないように広めていきたい」と野原さんは語る。

舞楽法会はまさにこの考え方を表現したものだ。舞台は大地を表す四角形である。正面を北に向けて設営される。観る側の神仏や天子が太陽のメッセージを受け取り易いように南向きで居るために舞台の向きは北向きとなる。舞人たちは東西に別れて、左方(さほう)、右方(う



リオ デ ジャネイロ セシリア メイレレス劇場 中央 舞楽/陵王



ブラジリア テアトロ フナルテ会場 プレトーク



サンパウロ 美術館 声明

ほう)と呼ばれる。左方は金の鉦、右方は銀の鉦を持つが、太陽と月を象徴する。などなど、全ては説明しきれないが、衣裳から、楽曲、舞台設定など全てが事細かに規則通りに演じられるのだ。

### 迫力満点。

#### 宇宙を表す舞楽法会のステージ。

この舞楽法会が2008年11月24日~12月11日に、サンパウロを始めとするブラジルの各都市で開催された。どの会場も満席で上演後も拍手が鳴りやまないほどの大盛況だった。

舞楽法会は聲明(ショウミョウ)による法会を舞楽で演出するステージだ。聲明は仏典を詠むものだが、お経というより合唱に近い。公演ではまず客席を天台声明と真言法響会の僧侶達が囲み聲明から始まる。耳からではなく身体に直接はいつてくるような響きだ。これだけでも相当の迫力で、会場の空気ははりつめた。

そして雅楽が始まる。一般的に三管、三鼓、両絃を使用する雅楽は千三百年の歴史を持ち、世界最古のオーケストラといってもいい。三管とは、笙(しょう)、篳篥(ひちりき)、龍笛(りゅうてき)などだが、それぞれ天、人、龍

#### 担当者より



日本の伝統や哲学を  
廃らしてはなりません。

創造する伝統実行委員会 事務局長  
野原耕二さん

今日本は混沌としておりますが、人は何をどうあるべきかという指針も曼荼羅には秘められています。忘れ去られた知恵を今こそ活用すべきではないでしょうか。AJOSCのお志はブラジルの皆さんにも伝わったと思います。今後も活動を続けて参りますのでご支援いただければ幸いです。

を表している。他の楽器にも同様に意味がある。こうした楽器が澄みながらも重さも感じる不思議な音色を放ち、舞台は擬似的な宇宙へと進化していく。

そこで左方と右方に別れたグループが舞楽を披露する。曲風も芸風も双方はまったく異なるため、見方を変えると衝突しているような激しさも感じる。太陽が舞い月が舞えば、日が変わり季節がうつろう。時間の発生。宇(時間)宙(空間)の完成である。

この舞台では細かな点まで伝統に則りながらも、照明など新しい技術を駆使した演出が施された。「創造する伝統」という名にふさわしい公演となった。

さらに、会場のロビー部分を利用して、最新デジタル最高精細プリント技術を使った「デジタルカルチャー日本展」も同時に開催。北斎や広重、歌麿などの浮世絵などの巨大タペストリー、絵巻、掛軸が、最新印刷技術作品となって展示された。

「最近では日本でも雅楽ブームですが、むしろ海外から逆輸入した感があります。曼荼羅や雅楽等は、日本の知恵の集大成でもありますから、少し恥ずかしい状況です」と野原さん。同委員会では今後も海外での公演を予定しているが、国内でも上演するという。機会があれば鑑賞をお勧めしたい。観る人の世界観が変わってしまうほどの衝撃的なステージである。